



図書館ボランティアだより

第 58 号

令和 5 年 2 月 1 日

発行 阪南市図書館フレンズ広報部会



図書館フレンズ 2月の活動予定

曜日	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土				
日	29	30	31	2/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11				
配架	○	○	○	休館日	○	○	○	○	特別資料整理期間 (休館)				○	○				
書庫入れ			○															
図書整備	午前	○					○											
	午後	○																
生け花緑化							○									○		
館内装飾																		
広報	○									○								
ブックスタート						○												
おはなしでこい								○										
はじまり紙芝居	○									○								
	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25				
配架	○	休館日	○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日	○	休館日	○				
書庫入れ			○			○				○								
図書整備	午前							○				○						
	午後											○						
印押し	午前						○											
生け花緑化									○									○
館内装飾																		
広報	○									○								
ブックスタート																		
おはなしでこい																		○
はじまり紙芝居	○							○										
	26	27	28	3/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11				
配架	○	○	○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日	○	○	○				
書庫入れ			○			○				○				○				
図書整備	午前	○					○			○				○				
	午後	○								○				○				
生け花緑化															○			
館内装飾			○															
広報	○								○									
ブックスタート						○												
おはなしでこい								○								○		
はじまり紙芝居	○								○									

紙芝居を上演して

令和4年12月から、阪南市立図書館での紙芝居の上演が毎週日曜日となりました。今回は、初めて紙芝居を上演した感想を、紙芝居部会の皆さんにお聞きしました。（編集：広報部会）

河野芳夫

絵をめくりながら裏の話を読んでいたらOKと、ろくすっぽ練習せずに挑んだら、ヘマをして焦る事焦る事。

久しぶりに心の友に会いました。パニックになった時に頭の中に出て来るのです。

「焦るな、立ち止まってよく見ろ」と。

紙芝居の場面をめくって、順番に後ろに入れていたのですが、中に半分だけ抜いて、次の画面の話の一つ前の裏で読む所があります。

ここでどの画面の裏の文章を読むのか分からなくなりました。元に戻ったり、飛ばしたりと焦りました。

年寄りが子ども達の前でうろたえるのは見せたくないです。

どうせやるならと紙芝居の大御所、堀尾青史編のプーシキン作『金色の魚』を選んでしまって全くの失敗でした。

反省から2回目は展開の簡単なモノ、3回目は自分の好みのモノにしました。でも、自分に合わせると見ている子ども達に申し訳ないと思いました。



奥野知栄子

早くから椅子に座って待っていてくれたので、わらべうたの手遊びをしながら時間前からはじめました。

予定時間より早く終わりそうだったので急遽もう1冊紙芝居を増やしました。余分に用意していて良かったです。

大人の方も一緒に手遊びをしてきていい雰囲気をつくってくれました。終わると同時に「おもしろかったー！」の声が聞こえて嬉しかったです。



坪田冬至子

時間がきても観客が集まらないので、上演できるだろうか心配しましたが、幼児2人と小学生の男の子がきてくれてホットしました。

はじめから終わりまで一人の子どもが食い入るようにしっかり見てくれて嬉しかったです。励まされました。



中山千代美

上演するたびに、「子どもたちと一緒に楽しめてよかった」と思える一方、「もっとこうすればよかった」と反省する点も色々浮かびます。

紙芝居の順番を確認していなかったため上演途中にストーリーがこんがらがってしまったり、2枚一緒にめくってしまったり、幕紙を正しく使えていなかったり。これらの事は、注意すれば直せる事なので、必ず確認するように、習慣づけなければと思います。

それとは別に、全く初めて演じた時は、プログラム通りに進めた結果、小学生に幼児用の作品を披露してしまい、「しまった！」という思いでした。子どもの年齢に合わせて、その場で作品やプログラムを変更するという事は、一筋縄ではいきません。でも、そこにいる子どもたちに楽しんでもらおう、という気持ちで取り組み、経験を重ねていくうちに、きっと上達していくと思います。

失敗や反省をそのままにせず、次回に活かしていこうという姿勢を持ち続けたいと思います。

図書館フレンズの皆さまへ

「はじめましての会」のおしらせ

令和5年4月より、図書館の運営が市の直営から指定管理者に代わります。図書館運営を行う株式会社図書館流通センター（TRC）から、図書館フレンズの皆さまにご挨拶を行いたいということです。ぜひご参加ください。

日時：①2月14日（火）10時 ②2月17日（金）10時

場所：視聴覚室

内容：館長予定者あいさつ・会社の事業説明等

30分程度の予定です。当日の作業より、この会を優先してください。

いずれかご都合のつく日にご参加ください。（内容は同じです。）

マレーシアと日本を結ぶ（2）

マレーシアにも、コロナは、やって来た！

図書館フレンズ紙芝居部会 谷本千種



↑ 子どもたちが作った紙芝居を自分たちで上演する。



↑ 本帰国を前にみんなそろって

2020年3月18日 遂に『ロックダウン』が始まりました。

マレーシアでの『外出禁止令』は、日本の『非常事態宣言』とは、随分異なるものでした。

子どもを車に乗せて出かけるのも禁止。

学校は全て有無を言わず『オンライン授業』。

生活必需品の購入の際は、一家庭に一人で、特定の店で時間内に済まさなければなりません。

夜間の外出は禁止。そして州を越える移動は警察の許可が必要等等。それは、厳しいものでした。

当然、『なずな文庫』どころではありませんでした。

でも、こんな時こそ、『子ども達に絵本で、楽しんで欲しい』と、苦肉の策で、3月28日より『オンラインなずな文庫』をスタートしました。

これが思いもよらない副産物をもたらしました。過去にクアタラン在住だった家族が、日本帰国後も参加でき

るようになったのです。

iPad やスマホを利用すれば、一つの絵本の読み聞かせを、マレーシアの各地からも、(時差を考慮すれば)日本の各地からも視聴できて楽しむことができるのです。

ありがたいことに、この『オンラインなずな文庫』は、私が、昨年(令和4年)7月、本帰国してからも、今なお続いております。

しかしながら、対面でのストーリーテリングや、絵本の読み聞かせや、特に『紙芝居』に、オンラインは敵いません。ライブによる『臨場感』に勝るものは無いと感じる今日この頃です。

図書館での『はじまり はじまり♪紙芝居』で、キラキラと輝く多くの瞳に出逢えることが私のこれからの夢です。

拙い文章を前号に続き、ご拝読いただきまして、ありがとうございます。